

カジュアル規格スプレーギクの密植無摘心栽培における栽植密度

1. 試験のねらい

カジュアル規格スプレーギク生産について、密植によるコスト低減をはかるため、栽植密度が切り花品質に及ぼす影響について検討した。

2. 試験方法

- (1) 栽培土壌は表層多腐植質黒ボク土で、基肥は無施用とした。ノズルピッチ 40cm、ノズルあたり吐出量 38ml/min のドリップチューブを 90cm幅のベットに 2本配管した。
- (2) 品種は、Funrise, Royal Happy の 2品種を供試した。栽植密度について、3処理区を下表のとおり設定した。平成 6年 10月 24日定植の無摘心栽培とし、深夜 10:00~2:00 までの電照による栄養生長期間は 11月 10日までの 2週間とした。
- (3) 栽培は養分土耕栽培とし定植から 2週間はかん水のみ 1ℓ/m²とし、3~6週間まで窒素濃度 100ppm、1.5ℓ/m²とし、7~8週間はかん水 1.5ℓ/m²、9~10週間はかん水 0.5ℓ/m²とした。液肥はポリフィード (19-19-19) を 5時~6時まで 30分のインターバルで 2分間、計 4回点滴かん水を行い、養水分を作土層に浸潤させた。窒素施量は 4.2kg/10a。

栽植密度 (本/m²)

71

107

142

3. 試験結果及び考察

- (1) 茎長は全区とも差がなく、Funrise は約 60 cm、Royal Happy は約 50 cm となった。
- (2) 生体重、茎径、着色花数については、栽植密度が高くなるほど減少する傾向であった。
- (3) スプレーフォーメーションは、Royal Happy では全区 100% Bタイプとなったが、Funrise では 71本/m²の密度では Aタイプが 33% となった。
- (4) Funrise は定植から 69日後、Royal Happy は 75日後から開花した。142本/m²の栽植密度では他の栽植密度に比べて 1~2日程度遅れた。

4. 成果の要約

カジュアル規格のスプレーギクの無摘心栽培における栽植密度については 142本/m²では草姿のボリュームが小さく、開花に遅れが見られた。収量と草姿のボリュームの両方を確保するためには、栽植密度 107本/m²が良いと思われる。

(担当者 花き部 落合悦子*) ※現とちぎ花センター

表1 開花時の形態と開花日 品種 Funrise

栽植密度 本/m ²	茎長 (cm)	生体重 (g)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	着色花数 (輪)	S F		開花日 月 日
						A	B	
71	59.1	35.4	3.8	25.0	14.1	33	67	1.1
107	57.4	28.8	3.5	23.7	10.1		100	1.2
142	58.8	27.2	3.5	24.3	11.5		100	1.2

S F : スプレーフォーメーションは %で示した

表2 開花時の形態と開花日 品種 Royal Happy

栽植密度 本/m ²	茎長 (cm)	生体重 (g)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	着色花数 (輪)	S F		開花日 月 日
						A	B	
71	46.2	44.0	4.3	25.5	18.4		100	1.7
107	48.3	35.2	4.2	24.9	13.2		100	1.7
142	46.9	29.2	4.0	24.4	10.9		100	1.9

S F : スプレーフォーメーションは %で示した